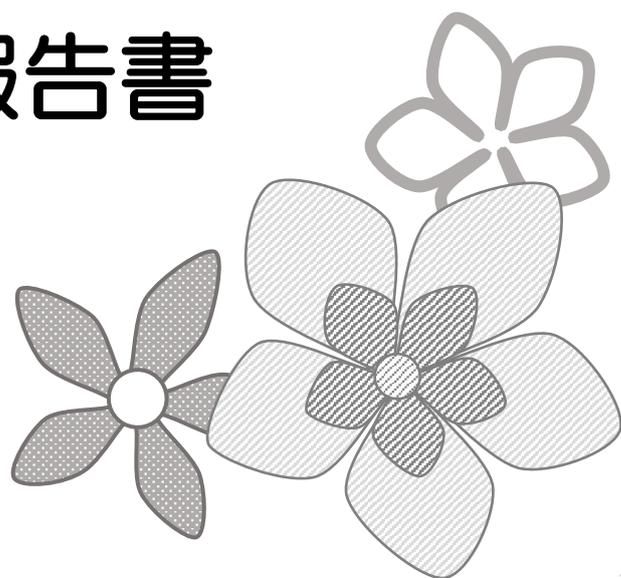
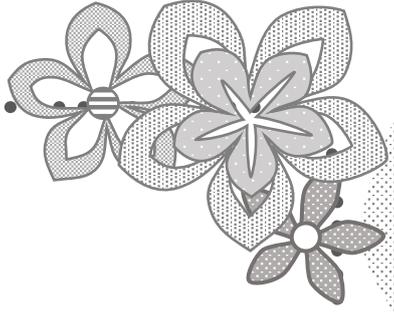


平成 29 年度

まちづくり応援補助金

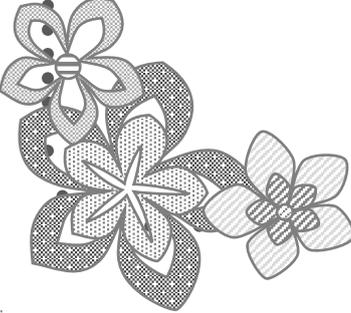
活動報告書





目次

平成 29 年度 まちづくり応援補助金 活動報告書

- 『東城スタイル』発信プロジェクト～まちの賑わい・デザイン・創造を仕掛ける～
東新会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 『不便・不足・不自由』生きる力のおおごちそう！サバイバル探検隊！N西城川
広島無人島キャンプ実行委員会・・・・・・・・ 2
 - 庄原魅力発見・発信プロジェクト
広島県立東城高等学校「東城応援隊」・・・・・・・・ 3
 - 平成 29 年度庄原実業高等学校「田んぼアート 2017」
広島県立庄原実業高等学校「農村環境創生研究部」・・・ 4
- 

団 体 名	東新会
事 業 名	「東城スタイル」発信プロジェクト ―まちの賑わい・デザイン・創作を仕掛ける―
事 業 費	1,380,992 円（うち補助金：700,000 円、自主財源 261,492 円、事業収入 419,500 円）
事 業 内 容	

今回、国の登録有形文化財であるヤマモトロックマシン旧自治寮等を、コミュニティ再生の場所（交流拠点）として位置づけ、国登録有形文化財建物群と周辺地域で、地域内外の芸術・作家等と「まちかどのアート展」「創作ワークショップ」「建物見学会」等の開催を通して、地域に活力を取り戻す事業を実施した。

- 1、交流・創作の拠点として国登録有形文化財（建造物）を活用するための修復作業の実施
 - ・修復作業体験ワークショップ（参加者 60 名）
 - ・民泊型修学旅行生 60 名による修復作業体験（ペンキ塗り、障子張り体験等）
- 2、「東城らしさ」と「まちの賑わい」を創出するための「まちかどのアート展」の開催
 - ・町並みのストリートファニチャーの仕掛けとしてベンチ・イーゼル作製ワークショップ
 - ・街道東城路のイベント期間中において地元洋画家による東城の町並みや建物のスケッチ画の展示
- 3、11月3～5日の3日間「交流・滞在・体験・創作」をテーマに文化財建物公開イベントを開催

波及効果

今回実施した活動を通して、地域外の人との交流が増えたことにより、「まち」のファン・サポーターが増え、地域への活力を取り戻すための一助となった。

（今まで 150 名近くのファン・サポーターがいたが、修復作業・ワークショップ・交流イベント出展者等新たに 40 名近く増加した。）

また、「まちかどのアート展」等のイベントを開催したことにより、街道東城路へ人の流れを誘引すると共に、活動がテレビ新広島「満点ママ！」において取り上げられたことで、11 月に開催した文化財公開イベントには多くの方の入場（3 日間延べ 1,100 人）があるなど、賑わいの創出に繋がった。

これらの活動が（公社）日本ユネスコ協会連盟の未来遺産運動プロジェクト登録候補となり、現地視察とヒアリングを受けることとなった。今回の登録は見送られたが、活動が広く認識されつつあり、更なる賑わいの創出が期待される。

写 真



団 体 名	広島無人島キャンプ実行委員会
事 業 名	『不便・不足・不自由』生きる力のおおごちそう！ サバイバル探検隊 IN 西城川
事 業 費	170,263 円（うち補助金：100,000 円,自主財源 70,263 円）
事 業 内 容	<p>私たちは、子どもたちの「生きる力」（自主性・創造力・忍耐力・協調性・適応能力等）を育むことを目的に、これまでに 28 回、2 泊 3 日の無人島でのサバイバルキャンプを行ってきた。しかし、家庭の事情や無人島でのサバイバルキャンプには一歩踏み出せないとの多くの声を受け、誰もが参加しやすい地元での川をフィールドに近年体験することが少なくなった川遊びを通し、子どもたちの「生きる力」の育成に取り組んだ。</p> <p>日時：平成 29 年 9 月 2 日、9 月 24 日 場所：庄原市口和町の西城川河原 参加者：小学生～中学生の子ども達のべ 43 名（各回 21 名程度） 内容：地域の高齢者から、今と昔の川の違いや川の歴史について話を聞き、投網の仕方を教わる。 自分で作った竹竿での釣りや網で水生生物を捕獲し観察する。 たき火での創作料理（ギギウやヨシノボリの素揚げ、炊飯、うなぎ丼、みそ汁など）。 川流れ遊びや河原での創作遊び。</p>
波 及 効 果	<p>採った魚を子どもたち自身で調理し昼食を作ることで、自然と役割分担が行われ自主性や社会性の育成につながり、独りで参加した子どもたちも次第に会話が増し協調性を育むことができた。採った魚をその場で調理し命を頂くことで、食べ物に対する感謝の気持ちを感じることができた。</p> <p>限られた時間ではあったが、子どもたちは自然の中でのびのびと遊び、試してみたいことに挑戦し、工夫し、達成することで自信をつけ、自主性、創造力、協調性、適応能力などの「生きる力」が養われた。</p> <p>事業実施後の保護者からは「水の大切さについて家でもよく口にするようになった」、「川に行ったときにゴミを拾う姿に感動した」、「『川は流れている』という当たり前な事を詩に書いて喜ぶ姿を見て、まず体感する事の大切さを痛感した」、「川原にある物だけで火がおこせてご飯ができることに感動し、『ガスが使えなくなったらご飯を僕が作ってあげる』と言っていた」、「子どもの話をきいて身近にこんな素敵な川があったと改めて気づかされた」といった報告を多数受けた。</p> <p>これらのことから「川」がより身近な存在となり、ふるさとのシンボルとして愛する気持ちと「生きる力」が子どもたちに芽生えたと感じている。</p>
写 真	  

団 体 名	東城応援隊（広島県立東城高等学校）
事 業 名	庄原魅力発見・発信プロジェクト
事 業 費	301,492 円（うち補助金：300,000 円，自主財源：1,492 円）
事 業 内 容	

- ① 庄原のおすすめの観光スポットや巡るコースをアンケートで募集する。（以下アンケート設置場所）
 東城…東城高校、東城高校 HP、庄原市役所東城支所、トーエイ、東城図書館、遊 YOU さろん
 庄原…庄原格致高校生徒会、庄原市役所本庁、庄原市民会館、庄原市田園文化センター
 西城…西城紫水高校生徒会、庄原市役所西城支所
- ② 集まった情報を整理し、プランの作成をする。（エリアを東城、帝釈、庄原、西城とする。）
- ③ 現地確認をし、写真撮影や実測等を通して必要な素材や情報を集める。
 飲食店を訪問し、お店の方から直接話を伺う。
- ④ レイアウトやデザインを考え、印刷業者と協議し発注する。
- ⑤ 庄原市や県内各所に設置する。東城高校 HP に掲載する。

期待される効果

作成したマップを市内や県内各所に設置し、学校の HP 等で広報することで、庄原市の魅力をより多くの人に知ってもらい、そのマップを見た人に実際に足を運んでもらうことが期待できます。また、地元の人しか知らない観光スポットや情報を掲載することで、市外や県外からの観光客や自然に親しみたい人の訪問者の増加も期待できます。

今後、季節によって訪問に適した時期を発信し、外国語への翻訳や動画を作成することで、拡大が見込まれるインバウンド市場を視野に入れることにもつながると考えます。

写 真

庄原・西城エリア

お店の人に直接話を伺う。



東城・帝釈峡エリア

実際の距離や時間を測定。素材を集める。



団 体 名	広島県立庄原実業高等学校 農村環境創生研究部
事 業 名	平成 29 年度庄原実業高等学校「田んぼアート 2017」
事 業 費	342,434 円（うち補助金：257,690 円, 自主財源 84,744 円）
事 業 内 容	

地域と連携し「田んぼアート」の取組を行うことにより、休耕田や耕作放棄地を有効活用し、美しい田園風景を創造して、その活用方法を広く市民の方々に提案、庄原市の活性化に貢献することを目的とし、昨年より、庄原市内の休耕田だった水田を借りて実施しています。

「田んぼアート」とは、赤や白、紫、緑、黄色など様々な色の葉をもつイネを使い水田に絵を描くことです。今年度は、より完成度の高い田んぼアートの作品を目指し、古代米の苗を数多く準備し、より複雑な絵の作成に取り組みました。

4月中旬 イラストの選定・関係団体との打合せ

5月中旬 水田の準備（荒起こし・代かき・測量・イラストのくい打ち）

6月初旬 田植え（庄原小学校5年生、庄原実業の生徒、庄原青年会議所、県立広島大学の学生）

7月上旬「田んぼアート」の完成イベント

10月上旬 稲刈り（庄原小学校5年生、庄原実業の生徒、庄原青年会議所、県立広島大学の学生）

波及効果

休耕田や耕作放棄地の有効活用の方法を提案することができました。

庄原小学校の児童や庄原青年会議所のメンバー、県立広島大学の生徒、地元の企業の方など多くの人と協力して田んぼアートの取組を行うことにより、「田んぼアート」の輪を広げることができました。

夏休みに入ってすぐの3日間限定で、完成イベントを行いました。事前に新聞に折り込みチラシを入れたり、新聞社に取組の記事を載せてもらうことにより宣伝を行いました。その結果、完成イベントは、3日間で約300名の人に見学に来て頂くことができました。

写 真

